

報道関係各位	発信年月日	令和8年1月15日	送付枚数 (本紙含む)	5枚
担当部課名	担当課長名	担当者職氏名	連絡先電話番号	
企画部企画課	課長 河田 圭司	主幹 大坪 政通	(0836) 82-1110	
件名	スポーツ庁主催「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2025」において優秀賞を受賞した山口東京理科大学薬学部薬学科学生の表敬訪問を行います。			
内 容				
<p>下記のとおり、山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部薬学科の学生が市長を表敬訪問しますのでお知らせします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 日 時 1月22日（木曜日）午後4時から</p> <p>2 場 所 山陽小野田市役所本館2階 庁議室</p> <p>3 出席者 山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部薬学科3年生 西岡 玲南（にしおか れな） 様 山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部長 教授 和田 光弘（わだ みつひろ） 様 山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部薬学科 准教授 立花 研（たちばな けん） 様 山陽小野田市 市長 藤田 剛二（ふじた ごうじ） 副市長 古川 博三（ふるかわ ひろみつ） 企画部長 和西 禎行（わにし よしゆき）</p> <p>4 内 容 スポーツ庁主催「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2025」は、まちが運動・スポーツに親しみやすい場となるようなアイデアやデザインの提案を募集したものです。西岡様は「大学から地域に広がるクライミングによるまちづくり」をテーマとした提案により、48点の応募作品の中から一次審査（書類審査）を通過、二次審査（プレゼンテーション）を受け、アイデア部門で優秀賞を受賞されました。</p> <p>5 その他 当日は、二次審査で発表されたプレゼンテーション（10分程度）を行っていただく予定です。</p>				

# 健康まちづくりデザイン 学生コンペティション 2025

まち全体が  
スポーツに  
親しめる場へ



スポーツによる地域振興の価値をふまえ、身近なまちなかのスポーツ環境の創出や健康まちづくりに寄与するアイデアやデザインを募集します

募集期間 7/28(月)～10/10(金)

創意工夫に溢れた  
提案待ってます



室伏広治 スポーツ庁長官

詳細はスポーツ庁ホームページをご覧ください！

## アイデア部門

スポーツを中心とした  
well-being(ウェルビーイング)な  
まちづくり

スポーツを通じたライフパフォーマンスの向上や健康づくりに資する、まちなかでの具体的な活動シーンを実現するためのアイデアを募集

## デザイン部門

スポーツができる  
特定の「場」を核とした  
まちのデザイン

スポーツ施設、遊休地、河川沿いなどあらゆる「場」を地域の核として位置づけ、誰もが気軽にスポーツに親しむことができるまちのデザインを募集



応募概要は  
こちらから

スポーツ庁長官賞(各部門1点)、優秀賞(アイデア部門9点・デザイン部門4点)を選出  
長官賞受賞学生のアイデアを自治体へPR！

※参加特典として、コンペの趣旨を踏まえ作品を応募した応募者には、スポーツ庁より「サーティフィケート(修了証)」を付与します。

応募対象 大学院、大学、短期大学、専門学校、高等専門学校・高等学校等の 学生団体 又は 学生個人

### スケジュール

7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月

7/28(月) 募集開始 ～ 10/10(金) 提案メ切

事前参加  
エントリーページ



審査員からの  
オンラインレクチャー  
(8月、9月に2回実施)

<https://qa.nta.co.jp/Q/ja/87603240/compe2025/>

一次審査

11月  
二次審査  
(プレゼン)  
出場者  
発表

12月  
二次審査  
表彰式

1月～3月  
自治体への  
プレゼン  
など



## 応募概要

### 1. 応募テーマ・内容

#### 「まち全体でスポーツに親しめる「場」づくり」

スポーツを実施し、ライフパフォーマンスの向上を目指すことで、健康の保持増進はもちろん、QOL (Quality of Life) も高まり、生きがいのある充実した生活を送ることができるようになります。本コンペティションでは、対象地や地域を決め(大学のキャンパス等も可)、まちが、運動・スポーツに親しみやすい「場」となるようなアイデアやデザインの提案を募集します(下記2部門について募集)。【募集部門】①アイデア部門、②デザイン部門

### 2. 応募資格

(1) 応募資格時に、大学院、大学、短期大学、専門学校、高等専門学校、高等学校に在籍する学生の個人またはグループとします。

※社会人からの提案は、不可。

※グループの応募の場合、人数は問いませんが、代表者1名を選出し、事務局と連絡できる状況であること。

また、メンバー全員が条件を満たすことが必須。複数の学校の学生による構成されたグループでも可。

※アイデア部門は複数点の応募は可。一方、デザインは1名につき1点までの応募とし、異なるグループでの複数の応募は不可。

(2) 応募される学生の専門分野は問いませんが、建築・都市計画・ランドスケープ等空間を専門としている学生においては、「②デザイン部門」での応募を推奨します。

(3) 提出書類およびプレゼンテーションについては、日本語とします。

(4) 二次審査(プレゼンテーション)及び表彰式については、必ず1名の参加を求めます。(現地での参加が難しい場合は、オンラインでの参加も可。)

### 3. 応募方法

(1) 事前参加エントリー

・参加を希望する方は、以下のURLより、「10月10日(金) 17:00まで」に事前参加エントリーを行ってください。

※詳細は、スポーツ庁ホームページをご参照ください。

スポーツ・健康まちづくりデザイン 学生コンペティション2025

URL [https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/sports/mcatetop02/list/1380329\\_00027.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop02/list/1380329_00027.htm)

(2) 応募提出物(PDFデータにて提出)

①アイデア部門 プレゼンシート A3(片面、横使い) 1~2枚、計画の要旨(様式指定) A4 1枚

②デザイン部門 プレゼンボード A3(片面、縦横自由) 2~4枚程度、計画の要旨(様式指定) A4 1枚

(3) 応募方法

・「(2) 応募提出物」PDFデータを指定する保存先に格納し、保存完了を電子メールにてお知らせください。

※保存先やメール送付先は、エントリーいただいた方に、お知らせいたします。

### 4. 応募スケジュール

・事前エントリー：2025年10月10日(金) 17:00締切

・審査員等によるレクチャー：2025年8月中下旬、9月上旬 ※HPに後日公表

・応募提出物の受付：2025年9月1日(月)~2025年10月10日(金) 必着

・一次審査(書類審査)：2025年11月頃

※一次審査通過者への通知は、2025年11月中下旬を予定しています。通過者に通知するとともに、スポーツ庁ホームページにて発表します。

・二次審査(プレゼン)及び表彰式：2025年12月予定 @都内

※日程については、HPに後日公表いたします。二次審査及び表彰式の様子は、Youtubeで配信、アーカイブ配信を行う場合があります。

### 5. 選定方法

(1) 一次審査(書類選考)

・応募提出物に基づき、審査員による書類選考を行い、受賞者を選出します。

① アイデア部門(10点を選出)、② デザイン部門(5点を選出)

(2) 二次審査(プレゼンテーション)

・一次審査(書類選考)で選出された受賞者による最終プレゼンテーションを行い、各部門からスポーツ庁長官賞(最優秀賞)を1点ずつ決定します。

・その他の受賞者を優秀賞とします。(アイデア部門9点・デザイン部門4点)

(3) 審査員 ※ HPに公表予定

### 6. その他

○他者の立案した企画の一部または全部の無断使用や、使用未許諾の画像・ロゴ等の使用はご遠慮ください。

○応募された提案資料につきましては、返却いたしませんのでご容赦ねがいます。また、受賞作品については、スポーツ庁ホームページ等で公表する予定です。

○書類審査の結果は、受賞者の公表をもって回答に替えさせていただきます。

○応募に際して御提供いただく個人情報、本件に関する御連絡にのみ使用いたします。

○二次審査(プレゼンテーション)に参加する際に発生する交通費(国内に限る)については、スポーツ庁が負担し、支給額は規定に準じます。ただし、グループでの受賞の場合、支給対象は代表者1名のみとなります。

○参加特典として、コンペの趣旨を踏まえ作品を応募した応募者には、スポーツ庁より「サーティフィケート(修了証)」を付与します(一定の水準がクリアされていると判断された場合)。

# 大学から地域に広がる クライミングによるまちづくり

スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2025

山陽小野田市立山口東京理科大学  
薬学部薬学科3年 西岡 玲南

## ターゲット

山口県山陽小野田市



ココ

## 特徴・課題

- ・自然や歴史に恵まれる一方で若者の流出や地域活性化が課題
- ・地域における大学生の存在感が大きい  
山陽小野田市の人口 56845人(2025.8.1時点)  
山口東京理科大学の学生数 1840人(2024.5.1時点)  
市の人口のうち、本学の学生が占める割合は約3.2%

市民の約30人に1人が  
山口東京理科大の学生！

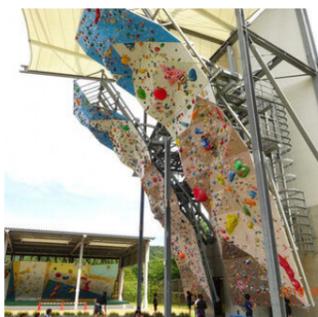


→大学を中心としたまちづくりが効果的！

- ・学生と地域住民の交流の場をつくることで  
コミュニティの活性化
- ・健康増進、教育、観光など多面的な効果が期待できる

## スポーツクライミングに着目

### スポーツクライミングの3種目について



↑リード競技  
ロープとハーネスを用いて  
高さ約15mの壁を  
どこまで登れるかを競う



↑ボルダリング競技  
高さ4~5mの壁で  
決められた課題を  
クリアできるかを競う



↑スピード競技  
高さ15mの世界共通の  
ルートをどれだけ早く  
登れるかを競う

### 3競技のうち、ボルダリングに特に着目！

- メリット
- ロープが不要で手軽に取り組める
  - 初心者・子どもも挑戦しやすい
  - 仲間と楽しめ、自然に交流が生まれる

＋さらに

大学の外壁など**既存スペースを活かす**ことで  
手軽に導入でき、持続的な運用も可能に！



### スポーツクライミングの現状と山口県との関わり

山口県にあるスポーツクライミングのクラブチームから  
これまでに日本代表選手を12名輩出  
→山口市に公共の大きなクライミング施設があることが背景にある

さらにオリンピック競技として注目を浴びたことによる  
スポーツクライミングの知名度アップ  
→都会を中心に民間のスポーツクライミングジムが増加

しかし...

山陽小野田市に民間のクライミングジムは存在せず  
取り組める環境がない  
また公園=子ども向け 商業ジム=クライマー向け(高コスト)  
という現状がある

→もっと気軽に大学生や地域住民が取り組める  
クライミングウォールが大学にあれば良いのでは...?!

### スポーツクライミングを取り入れることによるメリット

1. 身体も頭も使うスポーツ  
筋力・バランス・柔軟性だけでなく、課題を見て  
効率の良い登り方を考える思考力も鍛えられる
2. 戦う相手は自分自身  
他人との比較ではなく、挑戦するプロセス自体を  
楽しめる。また自身の成長を実感できる。
3. 誰でも楽しめ、新たな交流が生まれる  
子どもから大人、障がいの有無に関わらず楽しむ  
新たなコミュニティが生まれるきっかけとなる

## 提案

### 校舎の外壁をクライミングウォールに！

位置：キャンパス入口近くの校舎の外壁

規模感：縦 約3m, 横 約10m

クライミングウォール：高さを抑えた横移動型(トラバース)の導入

→壁を上方向ではなく横方向に進むボルダリングのスタイル。

落下の危険が少なく、安全に挑戦することが可能になる。

特徴：・屋根の設置 →雨が降っても壁、ホールド、マットを守れるように。

- ・マットの設置→安全のため。折りたたみ可能なマットを  
随時ひくようにするのよ。

- ・多数のホールドを設置

→様々な年代の方が挑戦しやすく上達度に合わせて

自分たちで課題(登るためのコース)を設定できるようにするため。

## 安全対策等、利用についての案

### 利用システム

- ・特に予約システム等は設けず、学生や地域の方が  
自由に利用できる開放型とする
- ・授業やイベント等での使用時は大学側へ事前連絡制とする
- ・道具を準備し、レンタル可能にする

### 安全面

- ・雨天、夜間など危険が伴う状況では安全面から使用を禁止する
- ・マットの設置、見守りの徹底などの安全ルールを定める
- ・誰もが安全に使えるように利用ルールを掲示したポスターを設置

### 管理

- ・定期的に学生を中心としたスタッフで点検・清掃を実施する
- ・学生主体で運営し、利用者の意見を取り入れながら改善していく  
仕組みづくりを行う

安全面については専門の方と相談しながら常時改善していくこととする。



## クライミングウォール導入によるロードマップ

### 1 大学での試行

大学内でのクライミングウォールの設置  
学生が日常的に使える運動の場へ

### 2 学生生活への定着

授業でのクライミングウォールの活用  
学生サークルでの使用  
学生による運営、管理

### 3 地域との交流へ拡大

休日を中心に地域住民にも解放  
→大学を訪れるきっかけに  
地域の健康づくり、交流拠点に  
まで成長させることが目標

### 4 街全体への展開

大学でのクライミングウォール導入を  
きっかけに山陽小野田市の  
代表的なスポーツとして  
スポーツクライミングを発展させる

## 将来の展望

### 4 街全体への展開

#### 地域との連携強化

- ・学部を超えた連携  
→薬学部と工学部が協力しクライミングウォールを利用した教育・研究・健康増進活動を展開
- ・大学間のつながり強化  
→近隣大学とも連携し、学生が交流・体験できるイベントを実施
- ・地域との協働  
→山口県山岳・スポーツクライミング連盟と連携し県全体で大学クライミングウォールの発展を推進

#### 生涯スポーツとしての発展

- ・誰もが楽しめる環境づくり  
→障がいの有無や年齢を問わず、安全に挑戦できる工夫を取り入れ、ともに楽しめる場を創出
- ・多様な能力の育成  
→体力だけでなく、判断力・集中力・自己挑戦力など多様な能力を身につけることができる
- ・「山陽小野田市＝スポーツクライミング」のまちへ  
→誰もが参加できるクライミング活動を通じて市の代表的なスポーツへと発展させる

#### 地域創生のモデルケースへ

将来的には、大学の敷地を活かしてクライミングウォールを増設し、国際大会や代表合宿が開催できるレベルの施設へと発展。これにより、県内外から人が集まり山陽小野田市の新たな魅力と活力の創出に繋がる。

山陽小野田市での取り組みをモデルとして、同様の課題をもつ他の地方都市に向けた展開を見据える

## ターゲット層と利用イメージ

### 1 大学での試行

ターゲット：大学生

- ・授業での活用  
→登り方を考えることで問題解決能力を強化
- ・個人のトレーニングや健康維持の手段として活用
- ・学年や学部を超えて学生が集まる“新しい交流拠点”に
- ・学生主導のクライミング体験イベントの開催  
→学生が主体性や協働力を育む機会となる

### 2 学生生活への定着

### 3 地域との交流へ拡大

ターゲット：地域住民

- ・地域の小中学生が参加できる大学生主体のクラブチームを創設  
→大学生が教えることで世代を超えた交流が生まれる
- ・地域の方向けにクライミングウォール開放デーを実施  
→地域の方が大学を訪れる新たなきっかけに  
→運動習慣がつくことで健康寿命の延伸にも貢献

## 大学クライミングウォール導入における課題点

都市部を中心に、多くの大学でクライミングウォールの導入が進められている。しかしその一方で、設置後に十分に活用されず、利用が低迷する事例も見られる。

継続的に利用される仕組みづくりや  
大学ならではの空間を活かした工夫が求められる。

#### 大学クライミングウォールを用いたイベント案

#### 大学×地域×学生の連携プロジェクト

- ・市と協力した健康増進イベント  
山陽小野田市と連携し、大学近隣の竜王山のハイキングと学内クライミングウォール体験を組み合わせた地域イベントを実施。地域住民と学生が共に体を動かすことで健康促進だけでなく地域交流の場としても活用できる。

#### 継続的な使用のための工夫

#### オンラインシステムの活用

- ・課題(登るためのコース)シェアのフォーマットづくり  
学生またはクライミングウォールを利用した地域の方が自分で作った課題や登り方を記録・共有できるフォーマットを作成。  
利用者同士の交流を促進し、継続的な利用へとつなげる。
- ・デジタルランキングボード  
挑戦者数や達成ランキングをデジタル上で可視化することでまた挑戦したいと思わせるような仕組みづくりを行う。